

令和2年度 学校経営目標と学校評価の推進

本校は「開拓の精神」を建学の精神とし、「整々たる校風」のもと、知・徳・体のバランスのとれた全人教育の視点に立ち、心豊かに逞しく生きる人間教育を志向した「創成の教育」を推進してきた。創立から半世紀が過ぎ、「進化する創成高校」を「SOSE Iシステム2.0」からさらに次年度からの「SOSE Iシステム3.0」を目指してコース変更も視野にいて取り組む。全教職員が「学校経営方針」のもと、学び続ける教師集団として「創成の教育」の更なる向上に努める。

※ 評価：5段階（年度末評価）

高い ← 5・4・3・2・1 → 低い

1 学校運営	校長の経営方針	分掌・センター等の関連項目・主な取組	中間総括（12月期）	年度末総括	評価	担当分掌
	<p>①校内の組織力を生かす。学年・分掌・教科等の各組織において緊密な連携のもとに迅速に情報を共有し、機能的且つ効果的な教育活動を推進する。</p> <p>②「教育構想企画室」においては学校経営方針、及び重点事項、学校評価に関する事項、今後の展望について未来志向に立った課題を検討する。</p> <p>③教育環境を整える。ICT（情報通信技術）環境と機器の整備を計画的に行い、実施に当たっては効率化と情報セキュリティの強化を図る。</p> <p>④危機管理対応については本校のマニュアルを基本に、迅速に関係機関と連携し、適切に対応する。</p> <p>⑤国際理解教育の推進。グローバル化に伴い、姉妹校との交換留学、海外研修等、国際交流を推進し、異文化理解と自国文化の再認識を図る。</p>	<p>①総務部の諸行事や所轄業務の遂行に当たり、各組織と連絡・調整を図り、円滑に企画運営する。</p> <p>②校長の諮問機関として、本校の将来構想を含め、諸課題について検討する。</p> <p>③ICT委員会を中心に、情報機器の環境整備に努め、生徒及び教職員の活用環境の向上に努める。</p> <p>④多様化・深刻化する危機に備え、適切に対応するために、危機管理の意識を全教職員が共有し、対応する。</p> <p>⑤交換留学や語学研修、及び報告会等の諸行事を通して、国際理解教育の推進を図る。</p>	<p>①コロナ禍の下、様々な行事に中止・変更を余儀なくされたが、その中で諸関係分掌の協力により、できうる限り運営できた。</p> <p>②指示された次年度行事の精選は、各分掌等からの意見集約、会議を経て決着を見た。</p> <p>③回線およびルータの更新を行った。次年度からのタブレット増加に合わせてWifi機器の更新を検討中。</p> <p>④新型コロナウイルス対応では、共通意識をもち、一丸となって取り組んだ。</p> <p>⑤全世界的に人の流れがストップし本校の姉妹校間生徒派遣も途切れてしまった。</p>	<p>①できうる限りの感染予防対策を盛り込み、様々な行事についてすべて見直しをかけたが、校内外各組織が連携して、クラス等発生することなく当初の目標を達成した。</p> <p>②本校将来構想を念頭に行事を見直し新年度行事計画に反映することができた。</p> <p>③Wifi機器の更新を行い安定したICT環境構築を実現することができた。</p> <p>④新型コロナ対応では、日常の衛生環境について徹底的な取組体制で臨んだことで最小限の休校措置等で終えることができた。</p> <p>⑤感染症による影響は年度末まで継続した。次年度は新コース始動の年となるので、それに合わせて計画を立てていきたい。</p>	4 4 4 4 3	総務部 企画室 情報システム 教頭 国際教育センター
	<p>①新学習指導要領に基づき、本校の教育方針に則った教育課程を編成する。</p> <p>②各教科は、組織的に基礎学力の定着と発展的な学習の指導法を探究し、学力向上に繋げる。</p> <p>③教師は、生徒個々の実態を把握し、能力・適性に合った授業実践に努め、授業管理を徹底する。</p> <p>④生徒の自立的な学習意欲を促し、主体的な「学び」へとつなぐ学習方法を工夫し、学力向上を図る。（アクティブラーニング・マネジメントノートの活用）</p> <p>⑤授業の短縮やカットは最小限に止め、授業時数の確保に努める。</p>	<p>①生徒の能力・適性・進路を把握するとともに、社会の変化等に対応できる教育課程の編成に努める。</p> <p>②生徒が基礎学力を定着させ、自主的に学習する態度を育成するとともに、発展的な学習の指導法を探究させる。</p> <p>③生徒の実態を把握するとともに生徒のやる気を起こさせる授業態勢づくりに努め教員の実践的な指導力の向上を目指す。</p> <p>④生徒に興味・関心を抱かせる授業内容を工夫改善し、生徒の主体的・自立的な学力向上を図る。</p> <p>⑤学校行事の精選を図り、授業時数の確保に努める。</p>	<p>①令和3年度の教育課程編成を行った。令和4年度からの新カリに向けた検討が急がれる。</p> <p>②コロナ禍の影響で2か月間の休校。この間、ICTを活用した遠隔授業等を実施したが、学力の定着は例年よりよくない。</p> <p>③ICTを活用した授業が増え、生徒のやる気が喚起された。</p> <p>④コロナ禍の影響で、グループワークや実習等が制限された。</p> <p>⑤コロナ禍の影響を受けたが、学校行事減少により授業時間はある程度確保できた。</p>	<p>①令和4年度入学生の教育課程編成に向け様々な資料を収集。令和3年6月には決定できるように検討中である。</p> <p>②ICTを活用しながら、学力の定着を目指した。</p> <p>③教員個々が、授業改善を図り生徒の実態に合わせた授業実践ができた。次年度は、組織的な実践となるようにしたい。</p> <p>④コロナ禍の中で教員各々が工夫して授業を実践。コロナ禍でグループワークや実習が出来なかった。</p> <p>⑤コロナ禍で11・12月も一部休校となったが、最低限の時数は確保できた。</p>	3 3 3 3 4	教務部 教務部 教務部 教務部 教務部

3 進路指導					
①生徒の進路目標を早期に設定させ、3カ年を見通した系統的な指導を行い、進路意識を高め、個々の生徒の進路実現を図る。	①3年間を見通した進路指導を系統的に行い生徒の多様な目標の実現を支援する。	①いずれもコロナ禍における取り組みであったという前提がある。	①国公立大学現役13名。専門学校進学者が増えたこと、進路未定者がいたことなどはコロナ禍において進路指導部が不十分であったといわざるを得ない。	3	進路指導
②生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指す進路指導に努める。	②生徒の可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指すため、学年、教科、分掌との連携を密にして、木目の細かな進路指導を推進する。	②3年生については、学年と連携を取り、不確定な状況下でも生徒のワンランク上の進路実現を支援することに力を注いだ。	②次年度へ向けて進路シラバスを踏まえた教科のシラバス作成によって縦の連携を図りたい。	3	進路指導
③SAGコースの進路マネジメントを有効に活用し、国公立大学・難関私立大学への現役合格を達成するよう進学指導を推進する。	③SAGのコースの特性を踏まえて国公立大学・難関私立大学への合格を目指し模試・講習の企画・運営・分析などを綿密に行い、生徒の進路指導を推進する	③学年で差が出た。教科の縦の連携が取れていないと、学年ごとに指導に差が出る。コロナ禍という制約の中でSOSEIシステム2.0に基づいた指導がうまくいっていない学年がある。	③新3年生については年度末の取り組みを増やすことによって例年以上に高い進路意識で進級させることができた。	5	特進選抜
④生徒の希望進路に応じて検定などの資格を習得させ個別指導を丁寧に行う。	④希望の進路に応じて、丁寧な個別指導で検定等の資格を取得させる。	④コロナ禍という制約の中ではおおむね順調だった。	④今後も英語系の検定を中心に積極的な受験を生徒に呼びかける。	3	特進選抜
4 生活指導					
①生徒の規範意識を高め、規律正しい生活習慣の定着を図る。身だしなみや挨拶・時間の管理・集団生活におけるルールやマナーなど、全教職員で一致した指導に当たる。	①服装や挨拶、集団生活におけるルールやマナー等を守らせ、規律正しい生活習慣を、教職員一丸となって指導を行う。	①全教員へ呼びかけ声掛け活動をお願いしている。指導部通信の他、クラッシーを活用して生徒、保護者への呼びかけ。	①Sosei3.0を受けて教育相談センターと合同で全教員へ呼びかけ声掛け活動を推進。クラッシー等を活用して関わる全てに呼び掛ける。	3	生徒指導
②自他の生命を尊重し思いやりの心を育み、いじめや体罰のない学校を推進する。	②「命の尊さ」をしっかり認識させ、相手を思いやる心を育み、体罰やいじめのない楽しく充実した学校生活を推進する。	②SNSを介したトラブルが絶えない。学校行事が実行できない以上、お互いをよく知る機会を増やす必要がある	②教護協会や北警察署の協力のもと防止活動に努めたい。特に家庭との協力を図るためにも細かな情報交換を実施していく。	3	生徒指導
③ボランティア活動を積極的に奨励する。	③奉仕の精神を育み、積極的にボランティア活動に参加する姿勢を養う。	③コロナ禍に伴い、各種行事が中止となった。体育祭では運動部に協力いただいた。	③積極的に取り組もうとする生徒が増加傾向にあるので、詳しいガイドラインを作成し、一層、活動しやすい環境整備に努める	3	特活センター
④生徒に寄り添う指導、向き合う指導を通して自律的な生活態度を育成し、不祥事故を未然に防止する。言葉の暴力・威嚇的な指導は避ける。	④交通事故や自転車事故等の負傷事故防止を行うと共に、教育者としての言葉遣いや教育姿勢を深める研修を行う。	④生徒や保護者との距離を一定程度保ちながらコミュニケーションをとることで此方の意図を汲んでくれるようになる。	④事故防止に努める啓蒙活動推進。より安全な乗車マナーは日常的に生徒へ直接的呼びかけを登下校時に呼び掛けていく。	3	生徒指導
5 特別活動・部活動					
①ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動や委員会活動に生徒を積極的に参加させることで、学校生活の充実と活性化を図る。	①生徒会行事を中心に、生徒会や委員会等の活動の活性化を図る。	①コロナ禍で行事がほぼ中止になった。体育祭では学級での活動を実施できた。	①今後感染症等対策を前提としてどのように活動ができるのかを検討する必要がある。	4	特活センター
②部活動(含む同好会)を奨励し、部活動への加入率を高める。	②学習と部活動の両立を目指すとともに、活発な部活動を推進する。	②4、5月の休校に伴い新入生への部活動勧誘が例年よりも減少した。	②最終的に例年通りの加入率ではあるが、活動が著しく制限されている部もあり、加入率に加えて内容の充実も検討していかなければならない。	3	特活センター
③強化指定部は、特に学校を代表する部としての自負心を持たせ、部員はその自覚のもとに全道、全国大会への進出を目指す。	③強化指定部は確実に実力を付け、全道・全国で活躍できる選手の育成に努める。	③各部の大会が中止になり、休校中の練習不足から怪我の報告も多くなった。	③大会結果を前提とせず練習不足からの怪我が増えないように、生徒の実態に即して指導を進めていきたい。	3	特活センター
④「朝の10分間読書」を生涯教育の一環として位置付け、読書活動を推進する。	④読書指導を推進し、図書館の利用拡大と読書力を高めるとともに、学習活動の推進に努める。	④朝読についてはおおむね生徒に浸透し実施されていた。生徒というよりも教員に対して朝読の意義や理念を啓蒙する必要性を感じた。	④朝読4原則「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」の原点に立ち返り、朝の習慣の定着化、読書のきっかけ作りを担っていきたい。	3	図書部

6 保健・安全指導					
<p>①学校保健計画に基づき、保健管理と保健教育を適宜指導する。</p> <p>②日常の防火・防災意識を高め安全管理を徹底する。</p> <p>③校舎内外の環境整備と美化に努め、施設設備・機器の保全に万全を期す。</p> <p>④生徒の心のケア等の健康管理については、担任は保健室、学年、教育相談センターが連携し、適宜、外部の専門機関との連絡を取りながら指導にあたる。</p>	<p>①保健教育と保健管理の諸活動を通して生徒の健康の保持増進を図り、自己管理能力を育成する。</p> <p>②日常の防火・防災意識を高め、安全管理と安全避難の徹底を図る。</p> <p>③快適な学校環境をつくり、公共物愛護の精神の育成を図る。</p> <p>④生徒の心のケアには校内外の関係機関と連携して支援の充実を図る。また、アセスのデータ分析と改善方法の提案、心理教育の試行の取組をする。</p>	<p>①コロナ禍における学校生活の過ごし方を生徒に周知した。</p> <p>②訓練用緊急地震速報を使用し、教室内での避難訓練を実施した。</p> <p>③折りに触れ、生徒に呼びかけを行った。</p> <p>④ゲーム障害については大学との連携で知見が得られた。また、アセスについては、当センター員が分担して面談をし、生徒の実態が以前よりは可視化された。</p>	<p>①具体的な事項(黙食, 手指消毒, 体温測定)を行うように生徒に呼びかけを繰り返し行った</p> <p>②年間1回だったが教室内での避難訓練を実施することができた。</p> <p>③消毒作業を徹底的に行うよう呼びかけを行った。</p> <p>④生徒の心の健康は、担任、教科担任、部活顧問などの日頃の生徒対応にかかっている。この単純な真実を踏まえ、忌憚のない意見を交わし、かつ協力し合って、少しずつ前進するしかないと思った。</p>	4	保健環境
				3	保健環境
				4	保健環境
				4	教育相談
7 研究・研修					
<p>①教師は日々自己研鑽に努め、公開授業や研究授業、生徒による授業評価・アンケート等を活用して改善に努め、教師としての資質や力量を向上させる。</p> <p>②校内研修体制を充実させる。また外部の研修会への参加や先進校視察を奨励し、研修内容を報告する。</p>	<p>①教師は、公開授業や研究授業を積極的に行い、アンケート調査等を謙虚に受け止めて生徒がわかる授業を心がけ、常に授業の工夫改善に努める。</p> <p>②校内研修の内容を充実させ、教科・分掌・学年の自主的・自発的な研修を推進するとともに、教員の実践的な指導力の向上を目指し、主体的・意欲的な研修の推進に努める。</p>	<p>①コロナ禍の影響で、公開授業や研究授業は中止した。年2回実施予定だったアンケートは、年1回とし12月に実施予定。</p> <p>②年度当初の研修計画を変更。コロナ禍における学習指導法の研究とした。</p>	<p>①授業アンケートを12月に実施。生徒、教員が互いに評価し今後も改善に努める。</p> <p>②次年度以降もコロナの影響が懸念される。いつ休校措置をとっても大丈夫なような準備が必要である。</p>	4	教務部
				3	教務部
8 広報活動・募集活動					
<p>①日常の教育活動が生徒募集活動に直結しているとの認識をもち、生徒・保護者の満足度を高める教育活動を展開する。</p> <p>②効果的な広報活動・募集活動を展開し、応募倍率の維持・増加を目指す。</p> <p>③学校HPを活用して生徒の活躍(学習・諸行事・部活動等)の様子をタイムリーに発信する。また、広報誌「ぷらたなす」、父母だより「ちょっといい話」、体文だより、学校案内「TRY」等の発行を通じて本校の教育を外部へ発信する。</p>	<p>①新しいコース制を目指し、あらゆる機会・手段を有効活用し積極的な広報活動に努める。</p> <p>②生徒募集の実質的な成果を上げるため、中学校及び塾と一層の連携強化を図る。</p> <p>③HPをとおして、生徒の学習活動や学校生活、部活動等を広く伝え、本校の効果的な広報活動に繋げる。</p>	<p>①特進コースについての広報が十分ではなく、コースのコンセプトがよくわからないという問い合わせが多かった。</p> <p>②コロナ禍での制限された広報活動を考えると、上出来と考える。</p> <p>③HPをリニューアルした。今まで以上に本校の魅力ある活動の広報に努める。</p>	<p>①見学会や保護者説明会で各コースのコンセプトを詳しく説明したことで、入試までには改善された。</p> <p>②ダイジェスト版を急遽配布し、他校に遅れることなく広報できた。</p> <p>③新しいHPを積極活用することで本校の積極的な広報活動につなげることができた。</p>	3	入選対策
				4	入選対策
				3	情報システム

9 その他				
	観 点	取組の概要	外部評価(意見・要望・改善事項)	
	①教職員は高い倫理意識を持ち、法規・法令・服務規程を遵守しなければならない。	①教職員、特に教員は専門職としての倫理意識を高め、生徒指導に当たる必要がある。体罰の厳禁、心のケアの対応、金銭等の幅広い倫理感や服務規程についての研修が急務である。	①教職員に対して生徒。保護者から、体罰調査を実施し、特に「ことばの暴力」に対してはパワハラでもあり、十分に話し合い今後もっと生徒に寄り添った対応ができるように研修等を積み重ねていく必要がある。	3
	②教職員が互いに理解と信頼によって結ばれた協働体制の確立に努め明るい職場環境づくりを心がける。	②組織の一員としての意識や協働体制の意義を再確認する研修と、創成高校の長期展望や創成でやる気を起こす「生き甲斐」を持たせる必要がある。	②新型コロナ感染予防対策を中心に、例年に比べてもより多くの会議・打ち合わせを設け、生徒や教職員の身を守り、その中でも学校教育活動を効率的に実施できるよう職員の共通理解と結束を高めることができた。	4
	③教職員は、学校経営への参画意識を持ち、意欲と活力に満ち、熱意と使命感を持って業務を遂行する。	③教職員が学校経営の「参画意識」を高め、本校の長期的展望を持って、時流に応じた取り組みの方向性を具現化する必要がある。	③校長の諮問機関として「創成プロジェクトチーム」を「希望者対象」に募集をし、学校づくりに向けての提言を校務運営委員会に提出、さらに職員会議で審議して次年度に向けて出発した。大いに参画意識が高まったと考える。	4
10 本校の近隣3町内会と連絡協議会を実施し、町内会から生徒に関する率直な意見を聴取する。				
	観 点	取組の概要	外部評価(意見・要望・改善事項)	
	①生徒の通学状況及び下校の様子 ②自転車通学のマナーの様子 ③服装や身だしなみの様子	①毎年6月に実施し、平成30年度は通算して26回目となる。 ②参加者は、町内会、父母の会役員、生徒会役員及び本校の教職員の約20数名で実施している。	①新型コロナ禍の中で、年度当初より実施が厳しく、実施できなかった。 ②生徒と地域の方々との貴重な会でもあり、今後は別の企画で実施を考えたい。	
11 保護者懇談会(3年生は7月下旬から8月上旬・1・2年生は9月以降)を実施し、学校・家庭との連携を一層図りながら学習指導・生徒指導の充実を図る。				
	①保護者と担任との意見交流 ②家庭及び学校での生活の在り方 ③家庭と学校との情報の交換及び強化等	①夏季休業期間に全校生徒を対象にして、2者懇談及び3者懇談(生徒・保護者・担任)を行っている。進路相談や生活相談など広範囲に生徒理解を進め	①今年度から3年生と1・2年の実施時期をずらして、より目標設定がしやすい時期に行った、成果があがった。特に1・2年生には適切な時期であった。 ②科目選択、コース確認などコロナ禍ではあったが理解が深まって良かった。	
12 保護者授業参観日(検討中)を実施し、生徒の実態や授業の様子・部活動の指導の在り方などを見学するなどして、本校へのよりよい理解を得る。				
	①授業や部活動等の参観 ②学校教育への関心度の契機	①平常の授業及び部活動の様子など参観対象である。 ②参観者からは、生徒の様子や教員の教育活動など率直な感想や意見が寄せられている。	①残念ながらコロナ禍で実施できず。今後は「開かれた学校」の推進を一層進めたい。 ②残念ながら実施できず。生徒の情報はClassiやホームページで積極的に流した。	
13 「よりよい授業」をするために、生徒による授業評価アンケートを全教員・全科目を対象として実施し、より効果的な授業改善を図る。				
	〈生徒の学習への取組〉 ①授業内容の理解、約束事の遵守 ②授業への集中、教材の準備 ③課題や小テストなどの提出等 〈教員の授業改善〉 ①教材の研究や教材の工夫 ②板書や話し方、説明の工夫 ③興味や関心、質問の工夫等	①アンケートは年間に2回(6月初旬と12月)実施し、生徒が受けている授業を対象とする。授業担当者に対する評価、授業を受けている生徒の自己評価、授業に対する興味・関心など生徒に評価させている。 ②生徒に「授業の良い点や改善して欲しい点」などを率直に生徒に評価させる。アンケート結果については、内容を要約して保護者にも公表し、教員側のよりよい授業改善に向けた授業評価として実施する。	①年2回実施予定であったが、12月に「全生徒対象」で実施した。生徒の自己評価、授業者に対する評価。意見などをアンケートで実施したが、多くの生徒の意見が出て、大変良かった。 ②「授業の良い点や改善してほしい点」などについて多くの意見が生徒から寄せられ、すべて各教員に示して授業改善や生徒理解の一助として活用してもらった。大変好評であった。	
14 保護者及び地域社会に開かれた広報活動を推進し、本校に対する理解を促進する。				
	①適宜、適切な情報の提供 ②学校理解の促進 ③学校の門戸開放 ④学校及び家庭等の地域の教育力の向上等	①札幌創成高等学校ホームページの更新を適宜・適切に行い、常に新しい情報により本校の教育活動への理解と協力を求め情報宣伝活動に努めている。 ②学校祭一般開放などにより、保護者・地域社会へ積極的な学校公開に努めている。	①新型コロナ関係も含めて、学校からの情報提供に務めた1年であった。多くの面で学校の対応を理解していただいた。 ②学校祭も含めて、学校開放の行事は全て中止となった。HPやClassiで保護者へは情報提供に努めた。	